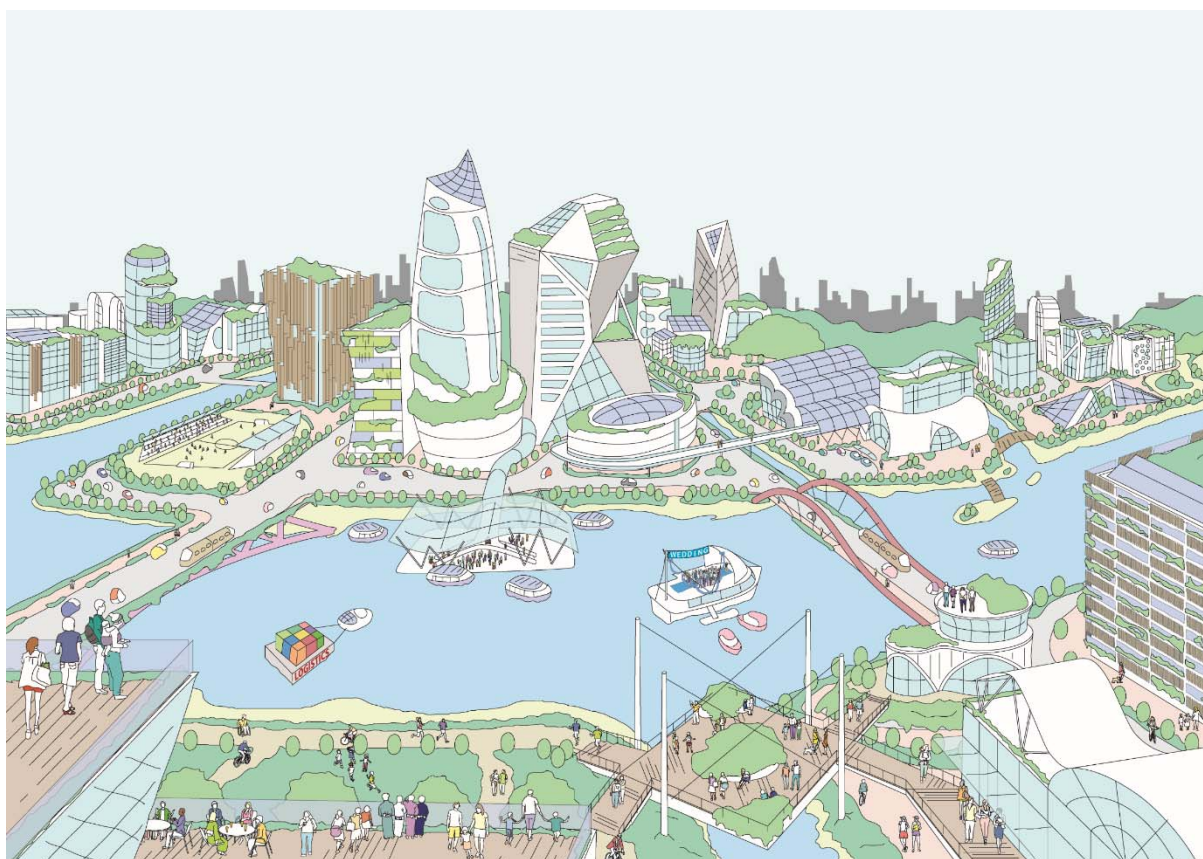


## 戦略 6関連 四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築

豊富な緑と水や、歴史・文化が蓄積された庭園などの東京の資源を最大限活用し、人々の暮らしにゆとりや潤いを与え、四季折々の美しい風景が感じられるまちづくりを進めます。



（水と緑がネットワークされた潤いあふれる区部中心部）

大規模公園やスポーツ施設が立地する区部中心部では、それらが水と緑のネットワークでつながり、舟旅や散策を楽しむ多くの人でにぎわっています。

太陽光等の再生可能エネルギーの利用が進むとともに、屋上や壁面が緑化されたゼロ・エネルギー・ビル（ZEB※）が立ち並び、まち全体でエネルギー負荷が低減した環境に優しい都市が実現しています。



（ブランド力の高い野菜や果物を生産する東京の都市農業）

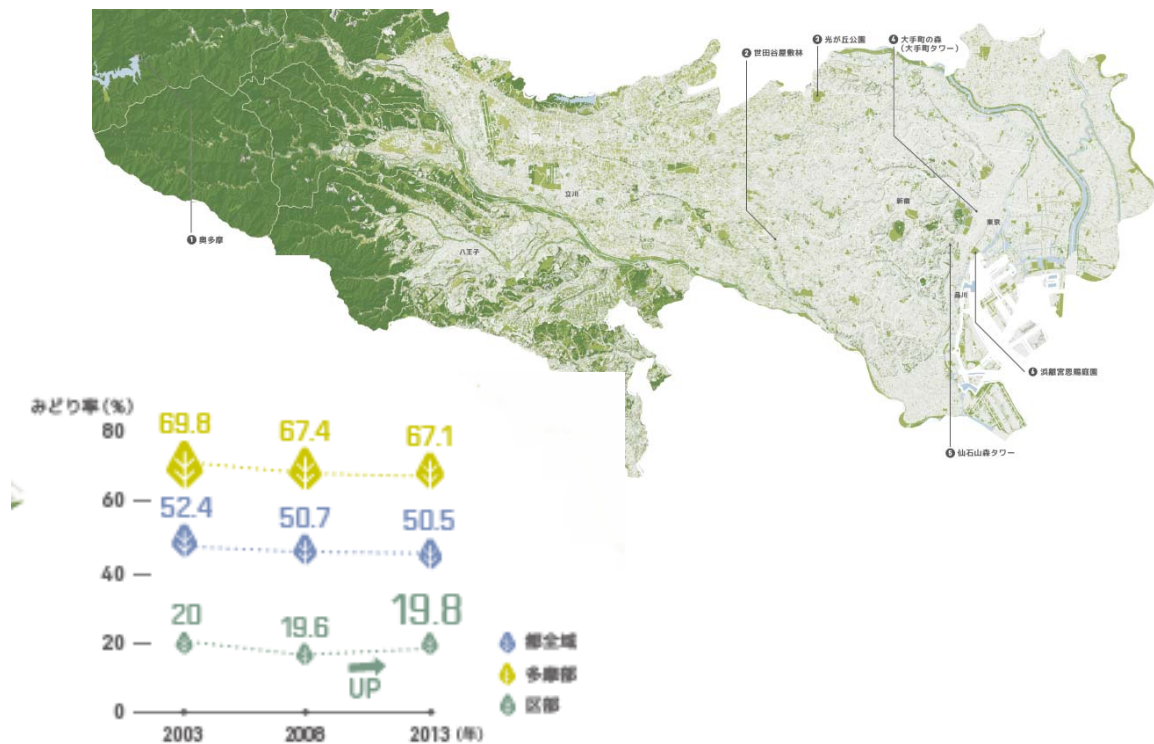
区部周辺部や多摩地域では農地が保全された上で、防災や教育など多面的な機能を発揮するとともに、人工知能（AI）やIoTなどを使ったスマート農業※の取組等により、多くの若者が楽しみながら農業に従事しています。

農地周辺の江戸東京野菜の直売マーケットやレストランでは、採れたての野菜やそれらをふんだんに使った料理が提供され、多くの人が東京の農業を身近に感じています。

## （現状と将来の見込み等）

- ・ 東京の緑は、公園・緑地が増えているものの、全体としては減少傾向にあります。これ以上緑を減らさないよう、今ある緑や農地を守るとともに、都市づくりのあらゆる機会を捉えて新しい緑を生み出す必要があります。（図6-1）
- ・ 特に農地は、都市化の影響や相続などにより減少を続けていますが、意欲的な農業者が増加するとともに農業に対する都民の関心は高まっており、都市の貴重な資源として積極的に保全・活用する必要があります。（図6-2）
- ・ 公園や緑地、歴史・文化が蓄積された庭園などの豊富な資源が、都市の中で十分に生かされているとは言えない面があり、これらの資源を活用していくことが求められています。
- ・ 東京には、海や河川、運河など多様な水辺空間があり、今後、水質の改善等とともに、まちづくりにおいて新たな水辺空間を生み出すなど、多くの人が憩える空間の創出が求められています。

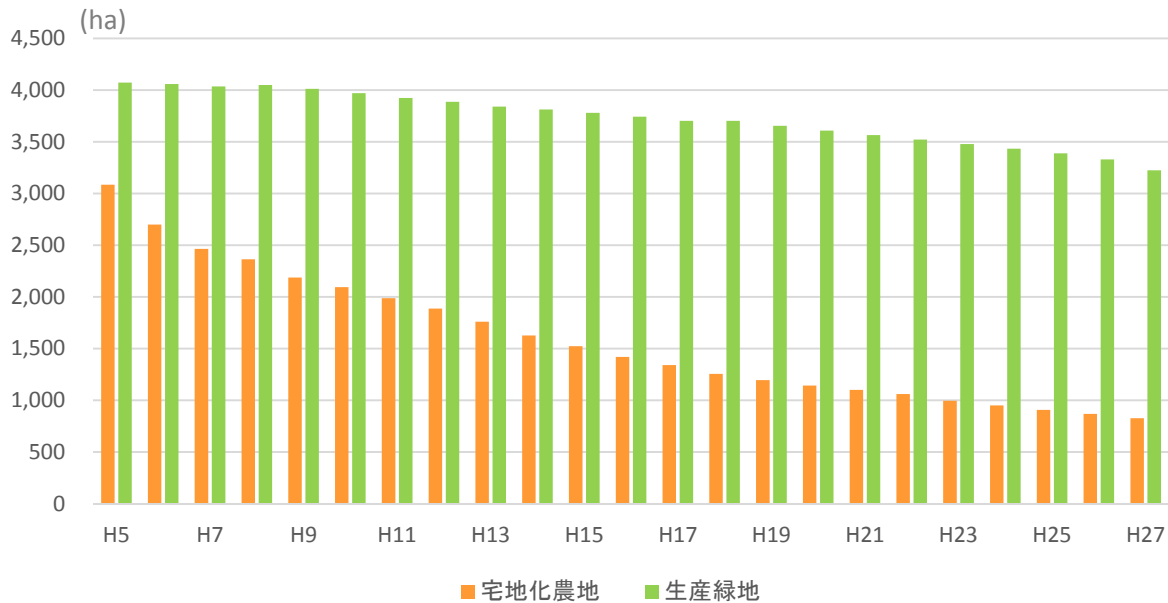
図6-1 東京全体に広がる緑



（資料）東京都都市整備局「平成25年「みどり率」の調査結果について」（平成26年9月）から作成



図6-2 宅地化農地と生産緑地の推移



(資料)東京の土地(土地関係資料集)から東京都作成

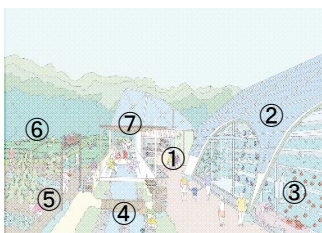
## パースの解説

### キープラン

### 解説



①周辺のまちづくりと連携して地域の価値を高める都市公園 ②充実した舟旅ネットワーク※ ③パブリックビューイング等のイベントに多目的に活用されるスポーツ施設 ④多摩産材を外装に活用したデザイン性の高い建築物 ⑤民間の観光船も発着し、にぎわいを生む防災船着場※ ⑥きれいな川で楽しむ船上ウエディング ⑦太陽光等を使い環境性能の高いゼロ・エネルギー・ビル(ZEB) ⑧都市開発に併せ無電柱化された道路空間



①消費者と生産者の交流の拠点となる農作物の直売所 ②太陽光発電を導入しエネルギーを自給自足する野菜工場 ③先端技術も活用し品質の高い農作物を効率的に育てるスマート農業 ④里山や清流の自然が保全された農空間 ⑤買い取った生産緑地を活用した市民農園 ⑥田植えや稲刈りを体験できる貴重な田んぼ ⑦農園に併設された農家レストラン

## 戦略 7関連 芸術・文化・スポーツによる新たな魅力を創出

成熟した社会において一層重要な役割を担う芸術・文化の力や、健康だけでなくにぎわいや観光の大きな要素にもなり得るスポーツの力を都市づくりに活用し、東京の魅力を向上します。



（東京ならではの伝統文化を楽しめる夜の水辺）

まちの中に生み出された多様なオープンスペースや、カフェやレストラン等のにぎわい施設が立地する水辺空間には、多くの観光客が訪れ、東京の魅力を体感しています。

ライトアップされたシンボル性の高い建造物等と江戸から続く多彩な文化との競演が、都市の中に新たな魅力を生んでいます。



（多様な文化やスポーツが楽しめる公園）

エリアマネジメント※等により伝統芸能やクラシックコンサートのイベントが連日開催されるなど、公園の多面的な活用が進んでいます。

満開の桜の中でサイクリングやジョギングを楽しむなど、多くの人が思い思いに四季折々の東京の魅力を体感しています。

## （現状と将来の見込み等）

- ・東京には芸術・文化に関わる多様な資源が集積していますが、美術館・博物館の来場者数は世界の大都市と比べても多いとは言えない状況です。ライフスタイルや価値観の多様化が進む成熟社会においてはこれらの資源を最大限活用することが求められています。（図7-1, 2, 3）
- ・東京2020大会のレガシーを生かし、健康の維持・増進、地域コミュニティの活性化など、幅広い効果を有するスポーツの力を、高齢化社会や人口減少などの課題解決に活用することが重要です。（図7-4）
- ・東京における国際会議の開催件数は増加傾向にあるものの、依然として世界の競合都市には後れをとっています。より質の高い観光・MICEのニーズへの対応として、ICTの活用や東京らしさを感じられる体験型の観光都市づくりが求められています。（図7-5）

図7-1 主要都市の美術館・博物館数

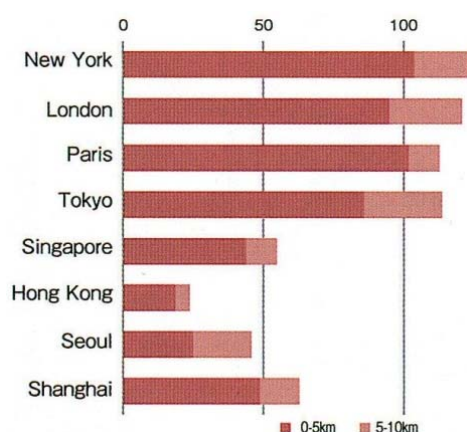
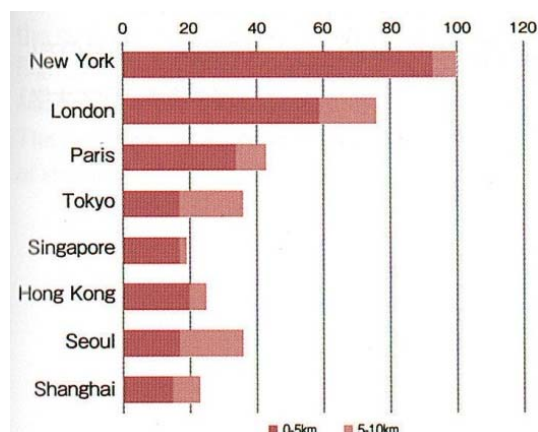


図7-2 主要都市の劇場・コンサートホール数



（出典）「新建築 平成27（2015）年6月別冊 TOKYO 150 Projects」  
（平成27年6月 新建築社）から東京都作成

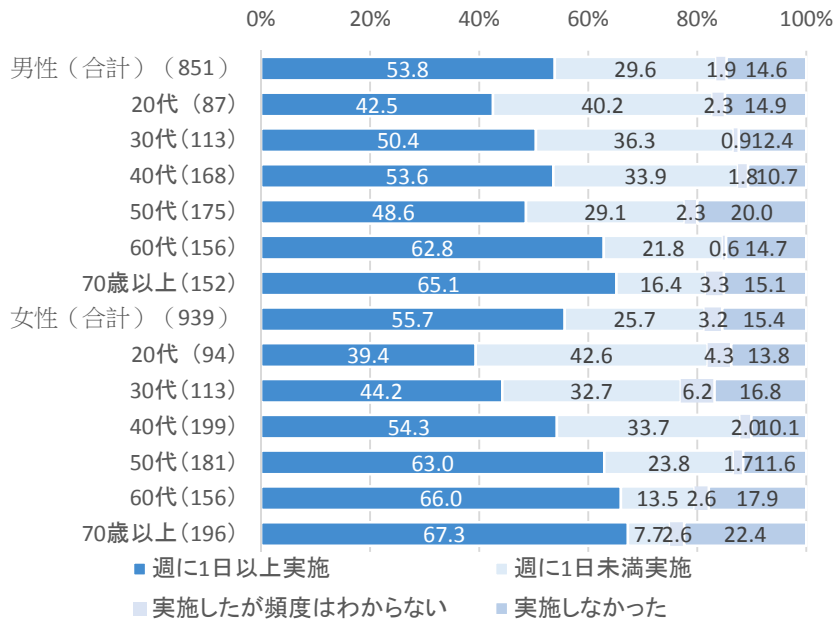
|    |                      |       |
|----|----------------------|-------|
| 1  | ルーブル美術館（仏パリ）         | 933万人 |
| 2  | 大英博物館（英ロンドン）         | 670万人 |
| 3  | メトロポリタン美術館（米NY）      | 622万人 |
| 4  | ナショナルギャラリー（英ロンドン）    | 603万人 |
| 5  | ヴァチカン美術館（ヴァチカン）      | 545万人 |
| 6  | テート・モダン（英ロンドン）       | 488万人 |
| 7  | 故宮博物院（台湾 台北）         | 450万人 |
| 8  | ナショナルギャラリー（米ワシントンDC） | 409万人 |
| 9  | ポンピドゥセンター（仏パリ）       | 374万人 |
| 10 | オルセー美術館（仏パリ）         | 350万人 |
| 20 | 国立新美術館（東京）           | 203万人 |
| 37 | 東京国立博物館（東京）          | 140万人 |
| 48 | 森美術館（東京）             | 122万人 |

図7-3 世界の美術館の年間訪問者数  
（2013年）

（資料）「The Art Newspaper」（イギリスの美術月刊誌）（平成26年4月）から東京都作成



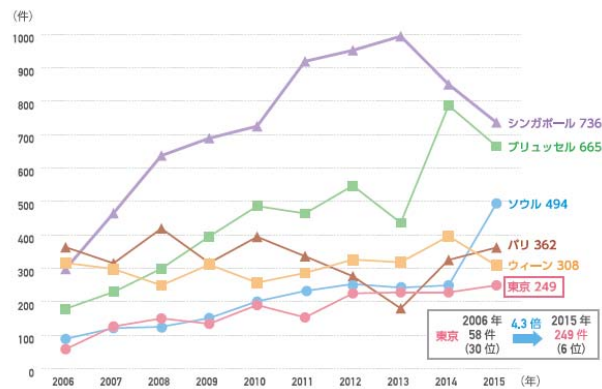
図7-4 性・年代別スポーツ実施率



(資料)

「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査」  
(平成29年1月) から東京  
都作成

図7-5 世界各都市における国際会議の開催件数の推移



(資料)

「国際会議統計」  
(日本政府観光局) から  
東京都作成

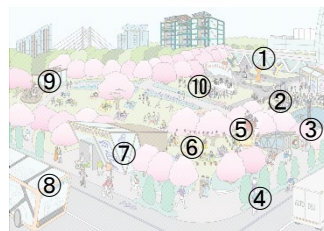
## パースの解説

### キープラン

### 解説



①デザイン性が高く水辺に顔を向けた建物 ②夜景を楽しみながらヘリコプターで移動 ③BRTステーションと隣接する自転車シェアリングのサイクルポート ④外国人もコミュニティの一員となって参加するお祭り ⑤水辺のライトアップを促進し東京ならではの景観を演出 ⑥ダンスステージとなる川床 ⑦オープンカフェなどによる水辺空間とまちの一体的な利用 ⑧地域の観光スポットとなっている土木遺産※ ⑨花火や屋形船など江戸時代から続く東京の「宝物」 ⑩都市活動を象徴する建物群にテーマ性を持たせたライトアップ ⑪花火を眺めながら東京の食を満喫できる屋形船



①公園と一体的な空間にある美術館とパブリックアート ②ペットと遊べるドッグラン ③地域に伝わる伝統行事の実演 ④道路空間のリメイクで生み出された自転車専用レーン ⑤ホログラムで上映される歌舞伎と三味線の競演 ⑥満開の桜の中で楽しむお花見 ⑦公園に近接し使いやすいランニングステーション ⑧自動運転技術も活用しゆっくり沿道の景観を楽しめるバス ⑨公園の緑を満喫できるオープンカフェ ⑩公民が連携したエリアマネジメントによるイベント開催



## 都市づくりの挑戦

7つの戦略に沿って、具体的な取組を分野横断的に進めていくことで、  
目指すべき都市像を実現していきます。

都民や民間事業者、区市町村など様々な関係主体との連携の下、積極果敢に都市づくりに挑戦する姿勢を明確にし、将来目指すべき状況を「都市づくりの挑戦」として示します。

### 都市づくりの7つの戦略

#### 戦略 1

持続的な成長を生み、活力にあふれる拠点を形成

#### 戦略 2

人・モノ・情報の自由自在な交流を実現

#### 戦略 3

災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築

#### 戦略 4

あらゆる人々の暮らしの場の提供

#### 戦略 5

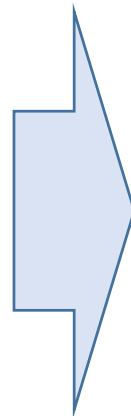
利便性の高い生活の実現と多様なコミュニティの創出

#### 戦略 6

四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築

#### 戦略 7

芸術・文化・スポーツによる新たな魅力を創出



## 都市づくりの挑戦

### 世界の 都市ランキング

#### 1位が定位置

(現状)世界の都市総合ランキング3位(2016年)／一般財団法人森記念財団都市戦略研究所  
東京は、交通・アクセスや環境など、都市づくりにおいていまだ世界と水をあけられている分野が存在します。  
「都市の成長がその国の成長を牽引する」と言われる今日、東京が持つ強みを伸ばし、様々な分野において世界をリードする都市の実現を目指していきます。

### 道路や鉄道の ピーク時の混雑

#### 解消

(現状)鉄道混雑率＊180%以上 11区間(2016年)／国土交通省資料  
道路の混雑時平均旅行速度＊18km/h(2015年)／全国道路・街路交通情勢調査(国土交通省)  
鉄道の一部の区間では、混雑率が180%を超えるなど依然として混雑が発生しており、道路の混雑時平均旅行速度もマラソンランナーより遅いなど、都内の交通は更なる改善が求められています。  
総合的な交通体系の構築や道路ネットワークの形成、自動運転技術の普及・活用、時差出勤やテレワークなどを推進し、円滑で快適な交通の実現を目指していきます。

### 木造住宅密集地域 13000ha

#### 燃え広がりをゼロ

(現状)木造住宅密集地域を中心とした整備地域(約6,900ha)の不燃領域率＊62%(2016年)／防災都市づくり推進計画(東京都)  
木造住宅密集地域を中心に、震災時に特に甚大な被害が想定される地域を整備地域と指定して、改善を進めています。  
都内の全ての木造住宅密集地域(約13,000ha)において更なる改善を進め、燃え広がらないまちの実現を目指していきます。

### 都内の無電柱化

#### 電柱をなくす

(現状)電柱本数 約75万本＊(2014年)／東京都無電柱化推進計画(東京都)  
都内の道路の無電柱化率は約5%であり、ロンドン・パリの100%と比較すると大きく差が開いています。  
無電柱化の技術革新の進展等とともに、都、区市町村、関係事業者などが連携して取組を進めることで防災機能を向上させ、安全で歩きやすく、美しいまちの形成を目指していきます。

### 都民の生活満足度

#### 70%以上

(現状)都民の生活満足度＊54%(2016年)／都民生活に関する世論調査(東京都)  
都民が感じている生活満足度は、1970年代は70%前後でしたが、以降低下する傾向にあります。  
誰もがいきいきと暮らせる、活躍できる都市の実現を目指していきます。

### 公共交通の空白地域

#### 解消

(現状)公共交通空白地域＊の人口 約40万人(2010年)／東京都  
公共交通空白地域において、高齢者や障害者など交通弱者の移動の対応が求められています。  
フィーダー交通、デマンド交通の導入、自動運転技術の活用などによる地域の公共交通の充実や、集約型の地域構造への再編を進めることで、快適に暮らせるまちの実現を目指していきます。

### 緑の総量

#### 減らさない

(現状)みどり率＊50.5%(2013年)／東京都  
東京の緑は、公園・緑地が増えているものの、全体としては減少傾向にあります。  
今ある緑や農地を守るとともに、都市づくりの機会を捉えて新しい緑を生み出すなど、あらゆる場所で緑を感じられる都市の実現を目指していきます。

### 都民の スポーツ実施率

#### 70%以上

(現状)都民のスポーツ実施率＊56.3%(2016年)／都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査(東京都)  
健康の維持・増進、地域コミュニティの活性化など、スポーツの力を都市づくりに活用することが期待されています。  
スポーツを身近に楽しめるまちをつくることで、スポーツに親しむ人を増やし、にぎわいの創出など都市の魅力の向上につなげていきます。